

# 精華女子短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 精華女子短期大学の概要

設置者	学校法人 精華学園
理事長	吉田 幸滋
学 長	山本 孫兵衛
A L O	菱谷 信子
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	福岡県福岡市博多区南八幡町2 -1 2 -1

### 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科	生活総合ビジネス	50
生活科学科	食物栄養	100
幼児保育学科		150
	合計	300

### 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
保育福祉専攻	35
合計	35

### 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

精華女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神と教育理念は明確な言葉として示されており、それに基づき、教育目的・教育目標も明確に示され、教職員、学生、保護者などに周知徹底されている。

教育課程は体系的に編成され、免許・資格への配慮、授業形態や科目数のバランスなど、学生のニーズにも応え、シラバスを通じて授業内容・方法、評価方法などが学生に明らかにされている。またこれらには常に改善の努力が払われている。

教育の実施体制は充実しており、教育環境も適正に整備されている。図書館も蔵書数の充実をはじめ、よく整備されており、学生の利用も増加している。

単位認定の状況は良好で、免許・資格の取得は高い実績を示している。クラスアドバイザー（クラス担当指導教員）制度による学生への対応が確立されており、休学者、留年者、退学者が相対的に低い。学生の満足度を考慮して授業改善が試みられ、教育目標達成への努力が認められる。また就職率、特に専門就職の割合が高い。卒業後も各学科独特の方法で就職先や卒業生から情報収集するなど、卒業後評価への取組み努力がみられる。

適切な情報提供、公正な入学者選抜が実施され、入学後の学習支援や生活支援についても組織的な取組みが行われている。基礎学力不足の学生に対する補習授業が実施され、生活や通学のための便宜も図られている。学生に対する経済面およびメンタル面の支援体制が整備され、個人情報保護に対する配慮も行われている。進路支援が組織的に行われ、高い就職率につながっている。留学生、社会人学生、障害者、長期履修生受け入れ人数は少数だが、アドバイザーや国際交流センターにより、生活学習支援が行われている。

教員の研究活動は良好に展開されており、また科学研究費補助金などの学外からの研究費を獲得した教員には個人研究費の倍額を配分することや、Good Teaching 賞受賞の教員については特別研究費を付与する研究活性化のシステムがとられている。

「開かれた学びの場」としてエクステンションセンターを中心に、正課外教育講座として地域に開かれた短期大学作りが目指されている。学生の社会的活動の促進として各学科、専攻それぞれボランティア活動を行うべく組織的に活動部を設けて活動を展開している。国際交流については、大韓民国の崇義女子大学との学术交流として語学研修などが実施されている。

学校法人の管理運営体制、短期大学の運営体制ともに、それぞれ理事長・学長が先頭に立って積極的にリーダーシップを発揮している。寄附行為や諸規程に基づいて、種々の会議や審議会、各種委員会などが設けられ、適時、適切に開催されて管理運営が円滑に進められている。また、事務組織の整備、人事管理については、関係規程に基づいて各所管の業務の遂行や事務処理が適切に行われている。

財務については、過去3年にわたり均衡している。施設設備については、関係の諸規程に基づいて適切に整備され、管理がなされている。災害・防犯・避難などの安全に係る対策にもよく配慮がなされている。

自己点検・評価に関する学則、関連規程、実施要領などが整備され、組織的、定期的に点検・評価が実施されている。また、山口短期大学との相互評価を、平成11年より2回実施しており、改革・改善に向けて努力していることは評価できる。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標などを周知するための様々な取組みと工夫が評価できる。特に、各教室はじめ学内各所に建学の精神・教育理念を示した額の設置、仏教法話、学生掲示板への「毎月の徳目」掲示、教育理念の解釈と見直しなどを日常的、組織的に継続して取組んでいることなど、その姿勢と努力は高く評価できる。

評価領域 教育の内容

Good Teaching 賞受賞の教員による公開授業は、各教員の授業改善・向上を高める上で大いに役立つ。また資格取得に対する教育体制も評価できる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

クラスアドバイザー制度の確立により、学生へのきめ細かな対応が続けられている。休学者や留年者が非常に少ない上、退学者が年々減少していること、また、各学科における各種資格取得に対する取組みも評価できる。

「里帰りの会」の実施、「幼児保育センター」の設置など卒業生のための独自の支援体制が整備され、実施されている点も優れている。

評価領域 研究

教員の研究活動が展開されるように外部からの研究費を獲得した教員には個人研究費の倍額の配分システム、さらに Good Teaching 賞受賞の教員については特別研究費の付与などにより研究成果が認められることは評価できる。

評価領域 社会的活動

社会的な活動として「エクステンションセンター」の設置に加えて各学科、専攻の積極的なボランティア活動の展開が認められる。

評価領域 管理運営

事務に関する諸管理・処理規程が充実しており、諸規則に基づいた人事組織、教職員と学生との信頼関係の重視など、事務局の運営、管理は優れていると判断する。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

卒業後の支援を同窓会などとの連携を図ることで一層活性化させることが望まれる。

評価領域 社会的活動

地域に密着する短期大学として、エクステンションセンターの講座をより一層充実させ、地域市民など参加者を増加させる工夫と対策が期待される。

短期大学内における優れた諸活動を学外に情報発信し、広く社会に認知させることが望まれる。

評価領域 財務

コンピュータシステムのセキュリティ対策の充実が期待される。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創設者の精神を受け継ぎ、建学の精神を「仏教精神に基づく人格教育」とし、教育理念を「誠(まこと)・和(なごみ)・愛(じあい)」と明確な言葉で表現している。また、その背景、精神、教育目的などが多くの配布物に示されているとともに、建学の精神と教育理念が、理事長・学長の講話、学内諸行事、全学対象の仏教法話、オリエンテーションなどにより、教職員、学生、保護者などに周知されている。

教育目的・教育目標は、建学の精神・教育理念に基づき、全学、各学科・専攻科で明確にされている。また、学生への教育や指導を通じて、その内容や解釈の点検が、大学・各学科・専攻科で毎年なされている。また、自己点検・評価や山口短期大学との相互評価を定期的に行っており、短期大学の充実、発展に向けた努力は評価できる。

各学科・専攻などの会議、関連する学内会議などを通じて、教育目的・教育目標の共通理解が図られている。また、「自己点検・評価報告書」、そのほかの印刷物の発行、教授会、理事会での審議など組織的にも点検、周知が図られている。

### 評価領域 教育の内容

建学の精神や教育理念のもと、教育課程の編成方針をみる限り、学科などの教育目的・目標に照らして、基礎・教養教育や専門教育の重視とそれに対応する科目数を備え、必修科目と選択科目のバランス、講義科目と演習・実習科目のバランスをとり、教員の配置などを考慮した、体系的に設定された教育課程だと思われる。そして単位認定の評価も適切と判断する。

多様な免許・資格などの取得への配慮があり、授業形態のバランス、必修科目と選択科目のバランスもとれている。おおむね適正なクラス規模などを通し、さらに卒業要件や資格取得などの周知徹底において、教育課程は、選択の自由の保障と学生達の多様なニーズに応えうる教育内容になっている。

講義計画（シラバス）は事前に学生に配布され、その内容は、授業の概要と授業計画を明確に示し、学生にとって理解しやすいように表現され、教育方法、評価方法とも適切に明らかにされている。

教職員研修委員会の研修会の実施と、さらに授業内容や教育方法の改善・向上のために Good Teaching 賞を受賞した教員による全教員に対する公開授業の実施、学生による授業評価の実施とそれによる活用など、授業改善へ向けての努力がなされている。

#### 評価領域 教育の実施体制

学科・専攻における短期大学設置基準の規定（教員数など）の充足、短期大学教員にふさわしい学位、研究業績や教員の採用・昇格における選考基準の整備、助手・補助職員の確保など、さらに学生指導におけるアドバイザー制度も含めて、組織の責任体制のもと、教員組織は整備されている。

校地面積や校舎における短期大学設置基準の充足、授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室や、整備システムによるパソコン・周辺機器、ネットワークやLAN、マルチメディアなどの各施設の整備、さらに運動場、体育館など、教育環境は学生達に対して適正に整備されており、それらの整備に対して学生達の利用状況も適切であり、評価できる。また施設において、学生や教職員の安全性も配慮されており、一部障害者に対応したものになっており評価できる。

図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数そして図書館の広さなどは適正であり、当該短期大学の蔵書数は短期大学平均数を上回っていること、最近学生の図書貸し出し冊数が増加したこと、司書2名を含めて図書検索やウェブサイト上のサービス状況などを踏まえて、図書館の整備状況は妥当と判断する。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法は適切で、単位取得状況は良好である。資格取得についても高い実績がある。休学者、留年者、退学者が少なく、クラスアドバイザーを中心とした学生へのケアが充分実施されている。学生の授業評価アンケートの結果や近年の学生の資質の変化に対応して、演習や発表授業、模擬保育、視聴覚教材などを導入し、授業改善に努めている。総合的にみて、教育目標達成への努力がみられ、効果を上げていると認められる。専門就職の割合は十分に高く、評価できる。また、就職先の評価に関する情報も様々な

形で得ようとする努力が認められ、卒業生からの意見を取入れようとする工夫がみられる。

「里帰りの会」の実施、「幼児保育センター」の設置など、卒業生のための独自の支援体制が整備され、実施されている。今後、同窓会との連携を図ることで卒業生支援を一層活性化させることが望まれる。

#### 評価領域 学生支援

入学志願者に対して適切な情報提供が実施されている。多様な入試制度が確立され、入学者選抜が公正かつ適切に実施されている。

入学時や学期ごとに、ガイダンスや印刷物を通して学習支援や情報提供が行われている。また、基礎学力不足の学生に対しては各学科・専攻の状況に応じた補習授業や個別指導が実施されている。学生の悩みに対する相談や指導助言のための体制も整備されている。生活支援についての教職員組織が整備され、19のクラブ・サークル活動や学友会活動を教職員が支援している。学生のキャンパス・アメニティへの配慮についてもおおむね良好と判断できる。学生寮の設置や宿舍の斡旋、駐輪場の確保など生活や通学のための便宜が図られ、各種奨学金の制度の利用と独自の奨学金制度の整備によって、学生への経済的支援も実施されている。学生の健康管理や精神面での支援体制が整備され、学生個々の記録の保管も適切に行われている。

就職ガイダンスや個別指導など就職支援が組織的に行われており、就職率や専門就職率の高さに結びついている。海外留学に関しては過去3年間実績がないが、進学に関しては、クラスアドバイザーと教務課が連携して支援を行っている。

留学生、社会人学生、障害者、長期履修生受け入れの歴史は浅いものが多く、受け入れ人数も少数だが、国際交流センターの設置や小論文による入試の導入、アドバイザーによる対応など、生活学習支援の体制作りがなされている。

#### 評価領域 研究

教員の研究業績は短期大学として良好な内容であることを認める。特に、科学研究費補助金などの学外からの研究費を獲得した教員については、個人研究費を倍額とする学内研究費の配分や、Good Teaching 賞受賞の教員には特別研究費が付与される研究活動活性化のシステムは評価できる。さらに、学科ごとのグループ、共同研究の推進などの検討も望まれる。

研究経費についての規程が整備され、教員の研究成果を発表する機会が確保されて、研究に係る機器、備品、図書などに関する一定の支出も確保されている。研究室についても研究を行うのに十分な体制が整備されている。



これらの優れた研究活動をより広く一般に公開することを検討されたい。

#### 評価領域 社会的活動

「開かれた学びの場」としてエクステンションセンターが整備され、正課外教育講座として、地域に開かれた短期大学作りが目指されている。

「特別選抜制度・社会人選抜」を設けて社会人入学の門戸が開かれ、行政、各種団体、機関などとの交流活動も活発である。今後、それらの講座をより一層充実させ、地域市民など参加者を増加させる工夫と対策が期待される。

専門科目「ボランティア活動」の設置、サークルによるボランティア活動、学園祭での地域住民交流などが実施されており、ボランティア活動が促進されている。今後、さらに学外での広報活動など、より一層の活性化対策が望まれる。

姉妹提携している大韓民国の崇義女子大学とは教員、学生共々毎年、短期の語学研修を行っている。教職員の海外派遣は大韓民国が主体だが、タイや欧米も対象に行っている。

#### 評価領域 管理運営

理事会、常任理事会、幹部会、評議員会などの組織が学校法人の寄附行為および関連規程に従って整備されている。それらに基づいて、理事長の適切なリーダーシップのもと、組織的、計画的に管理運営がすすめられている。また、短期大学と高等学校に定例会を設置するなどして、意思疎通を図りながら学園の経営を行っている。監事は、寄附行為の規定に基づいて法人の財産状況および理事の業務執行状況について適切に業務を行っている。

短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されている。運営体制は、学則に則り教授会などいくつかの審議・検討機関が整備され適切に運営されている。教授会は、学則の規定に従って定期的開催され、教育研究上の審議機関として適切に運営されており、ほとんどの教授会において全員出席して行われていることは評価できる。短期大学の規模から考えて、事務部門の規模は適当であり、事務諸規程などが整備され、それらの規程に基づいて適切に業務が行われている。公印や重要書類・データの管理については、規程に基づいて処理されており、防災対策も年2回の整備点検が実施されている。事務職員は、学生に対してきめ細やかな対応と親切的な指導を心掛けている。また、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しており、学内外における各種研修への参加の機会を設け、事務職員の資質の向上、能力開発の向上を図っている。

学校法人は、教職員の就業に関する規程を整備し、それに基づいて適正に処理している。また、学校法人は教職員を学校の基本的財産として捉えてその立場を尊重するとともに、教員と事務職員はお互いの立場を尊重し連携しながら業務を遂行していると認められ

る。教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の遵守などに関しても各種の配慮がなされている。

#### 評価領域 財務

毎年度、事業計画案が作成され、理事会に諮り決定されている。予算は、3月の理事会で決定後4月に関係部署に伝達され、その後適正に執行されている。監事および会計士によれば、財務状況に特に問題はないと報告されている。寄付金の募集および学校債の発行は実施されていない。財務状況の公開に関しては、平成17年度に書類閲覧規則を定め、学園報にも掲載し、積極的に公開されている。

学校法人および短期大学の収支の状況は均衡しており、財務状況は健全に推移している。施設設備および学習資源（図書など）についての配分は適切であると認められる。

固定資産、図書、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品など）の管理については、経理規程および学園資産運用規程に基づいて行われている。火災等災害対策、防犯対策、避難対策などの安全対策にも配慮し、整備や点検・訓練がなされている。現在、事務室が分散しているが、今後一体化して一つにまとめる計画ということなので、学生サービスのさらなる向上が図られるものと期待している。なお、コンピュータシステムのセキュリティ対策は、短期大学自らも点検しているが、今後、創立100周年記念事業の中での具体的計画に沿った整備がなされることを期待する。省エネ・省資源対策として一定の配慮がなされている。

#### 評価領域 改革・改善

精華女子短期大学における自己点検・評価は、学則、「精華女子短期大学における自己点検・評価、相互評価及び第三者評価に関する規程」、「第三者評価に関する実行委員会実施要領」などの諸規程が整備され、その実施体制も確立している。また、それに基づいて定期的に自己点検・評価、相互評価が実施され、「精華女子短期大学 現状と課題 自己点検・評価報告書」、「平成11年度 山口短期大学と精華女子短期大学 自己点検・評価相互評価報告書」が公表されている。

自己点検・評価報告書の執筆は各学科、各事務部門などの管理責任者が担当しているが、該当項目に係る事項については多くの教職員が審議に関与していることを認める。また、それらの成果を活用するために、各種委員会、学科会議、各事務部門で点検・評価に係る該当内容を共有する事に努めている。特に改革・改善のための特別な組織体制は構築されてはいないが、既に構築されている組織で改革・改善に向けて努力している姿勢がうかがえる。

自己点検・評価活動は、全学的、組織的に取組まれており、相互評価も山口短期大学と

の間で、これまで2回、定期的に実施されている。また、それらの結果を各種委員会、学科会議、各事務部門で共有に努めていることを認める。